

釧路市春採湖における水鳥の繁殖状況

前田 紀子¹⁾・橋本 正雄²⁾

A Survey of Waterfowl Breeding in Lake Harutori, Eastern Hokkaido

Noriko MAEDA¹⁾ and Masao HASHIMOTO²⁾

ABSTRACT

A survey of waterfowl breeding was carried out from 1991 to 1998 in Lake Harutori. The study area (36.4ha) is located in the center of Kushiro City, eastern Hokkaido, and abuts on the coast of the Pacific Ocean and is known as the sole breeding ground of European Pochard *Aythya ferina* in Japan. The surroundings of the lake are reed shallows, wooded hills, grassy hills and residential sections.

The following waterfowls bred in the lake in the survey period : Little Grebe *Podiceps ruficollis* (1 to 9 pairs per year), Mallard *Anas platyrhynchos* (3 to 17 pairs per year), European Pochard *Aythya ferina* (1 pair in 1994 and 1997, 5 pairs in 1992), Moorhen *Gallinula chloropus* (1 pair in 1991 and 1994 to 1998) and Common Coot *Fulica atra* (10 to 28 pairs per year).

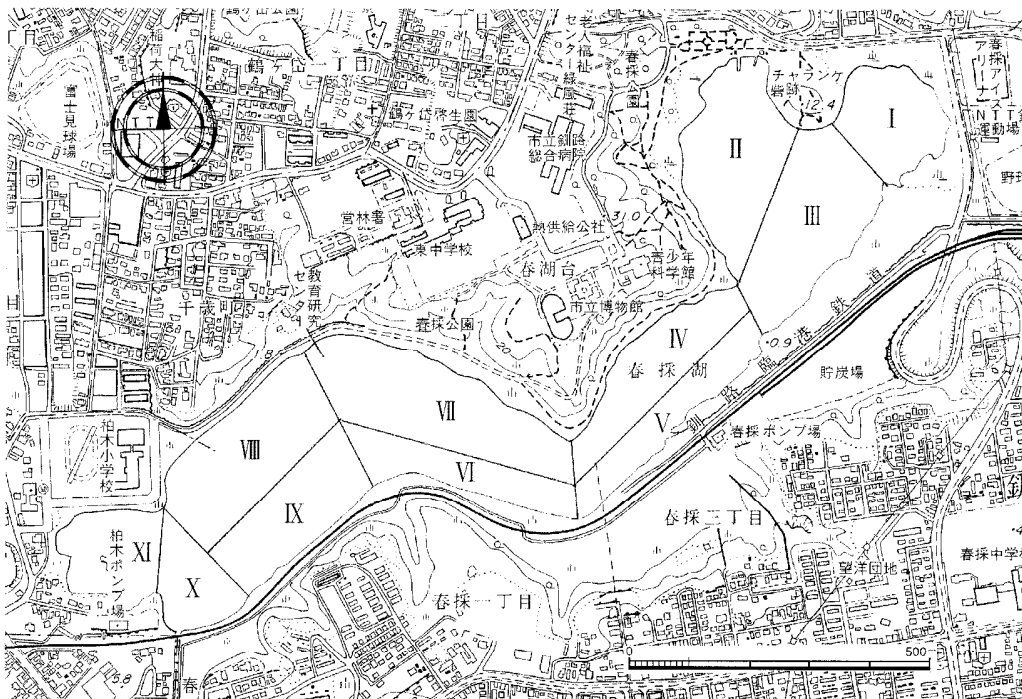
The breeding number of the waterfowls drastically decreased in 1993 because the construction works of a wild bird observatory and the dredging operations were carried out in the autumn of 1992, but the breeding number recovered to the number before the decrease in 1996.

1. はじめに

春採湖は、北海道東部の20万都市・釧路市の中心部近くに位置している天然湖である。ギンブナが突然変異を起こして生じたところのヒブナが生息し、1937(昭和12)年に「春採湖ヒブナ生息地」として国の天然記念物に指定されている。

湖畔は都市公園として散策路が整備されており、また博物館、科学館などがあり、釧路市民の憩いの場となっている。生息する野鳥も多くこれまでに150種を超える鳥が観察されており、またホシハジロの繁殖が日本で唯一確認されているほか、カイツブリ、マガモ、オオバン、バンなどの水鳥が繁殖する。

筆者の一人である前田は1991～1998年の8年間にわたり、同湖において水鳥の繁殖状況を調査してきたので、その結果について報告する。



図一 調査地(春採湖)

1) 日本野鳥の会釧路支部 (Kushiro branch of Wild Bird Society of Japan)
2) 釧路市立博物館 (Kushiro City Museum, Kushiro, Hokkaido 085-0822)

2. 調査地の概要並びに調査方法

春採湖は、釧路市街のほぼ中央に位置する天然湖である。標高30m内外の台地の間にS字状を呈して、ほぼ北東-南西方向に細長くのび、南西部は幅300mほどの低い砂浜で海岸と分かれている。湖の周囲は4.85km、表面積は36.4ha、湖面の標高は約70cmで、最深は5.8mである。

湖を取り囲む台地上は、ほぼ全域が住宅地となっている。湖の北部の西岸台地斜面は、幅約200m、長さ約400mの広がりをもつ雑木林となっており、この地域以外の台地斜面は草原となっている。湖岸のほぼ全域にはキタヨシが群生しており、ことに湖の北部の東岸部には最大幅300mほどの広いヨシ原となっている。なお、12月上旬から4月上旬までは、湖面全域が結氷する。

調査は湖面が解氷する4月から結氷し始める11月下旬まで、ほぼ週に1回、湖岸を一周して行い、双眼鏡と望遠鏡を用いて確認した水鳥の種類、個体数並びに出現位置を記録した。なお、湖を図-1のようにI~XIの区域に分けて、各区域での水鳥の繁殖状況の把握を行なった。

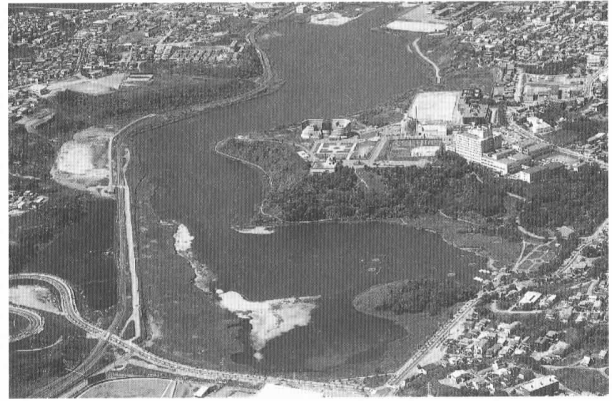
3. 調査結果並びに考察

本調査で繁殖を確認した水鳥は、カイツブリ *Podiceps ruficollis poggei*、マガモ *Anas platyrhynchos platyrhynchos*、ホシハジロ *Aythya ferina*、バン *Gallinula chloropus indica*、オオバン *Fulica atra atra*の5種である。

なお、カイツブリ、マガモ、オオバンについては、毎年、繁殖を確認したが、ホシハジロとバンについては繁殖を確認できない年があった。

(1) 繁殖状況の年変動

1991~1998年の繁殖期において上記の5種について確認した番数(NP)とヒナ個体数(NC)を表-1、図-2・3に示した。なお、マガモとホシハジロについてはヒナ連れの雌の個体数を番数として取り扱った。



春採湖（中央部の建物：釧路市立博物館）

8年間における調査においてオオバンのNPは10~28であり、5種中で最も多かった。マガモとカイツブリは、NPが3~17と1~9であった。番数は3種ともに年による変動があるが、繁殖は毎年確認できた。ホシハジロは、1992年(NP5)と1994・1997年(NP1)に繁殖が確認された。バンは1992・1993年には繁殖の確認ができなかったが、それ以外の年は1番が繁殖した。

各種の番数は年によって変動しているが、1993年には極端に減少した。マガモではNPが1992年の17から3へと、カイツブリでは6から1へと激減している。翌1994年には番数は回復傾向を示し、1996年には激減前の1992年の状態にほぼ戻った。なお、この激減の原因としては、1992年の秋に春採湖を浄化するために湖底浚渫が区域II(図-1)で実施されたことと、野鳥観察施設の建設工事が区域XIの湖岸で行なわれたことが翌春の水鳥の繁殖に強く影響を与えたためと考えられる。

なお浚渫は、1992~1998年まで毎年11月に区域I・II・IIIで実施されたが、湖岸の植生はよく保全されたために水鳥の生息環境には大きな変化は生じていない。このことが、1996年には繁殖状況が浚渫開始以前の状態にまで回復することに繋がったと考えられる。

8年間のヒナ個体数はオオバン(15~86)、マガモ(14~80)、カイツブリ(4~27)、ホシハジロ(1~20)、

表-1 春採湖で繁殖する水鳥の確認番数とヒナ個体数

種 名	1991年		1992年		1993年		1994年		1995年		1996年		1997年		1998年	
	番	ヒナ	番	ヒナ	番	ヒナ	番	ヒナ	番	ヒナ	番	ヒナ	番	ヒナ	番	ヒナ
カイツブリ <i>Podiceps ruficollis poggei</i>	9	16	6	10	1	4	5	17	5	14	9	27	8	20	6	11
マガモ <i>Anas platyrhynchos platyrhynchos</i>	6	30	17	80	3	14	4	26	6	38	8	53	8	43	8	30
ホシハジロ <i>Aythya ferina</i>	0	0	5	20	0	0	1	2	0	0	0	0	1	1	0	0
バ ン <i>Gallinula chloropus indica</i>	1	5	0	0	0	0	1	1	1	2	1	2	1	3	1	3
オオバン <i>Fulica atra atra</i>	26	55	13	26	10	15	14	60	14	45	21	56	26	86	28	76
計	42	106	41	136	14	33	25	106	26	99	39	138	44	153	43	120

※マガモとホシハジロについては、ヒナ連れの雌の個体数を示す。

釧路市春採湖における水鳥の繁殖状況

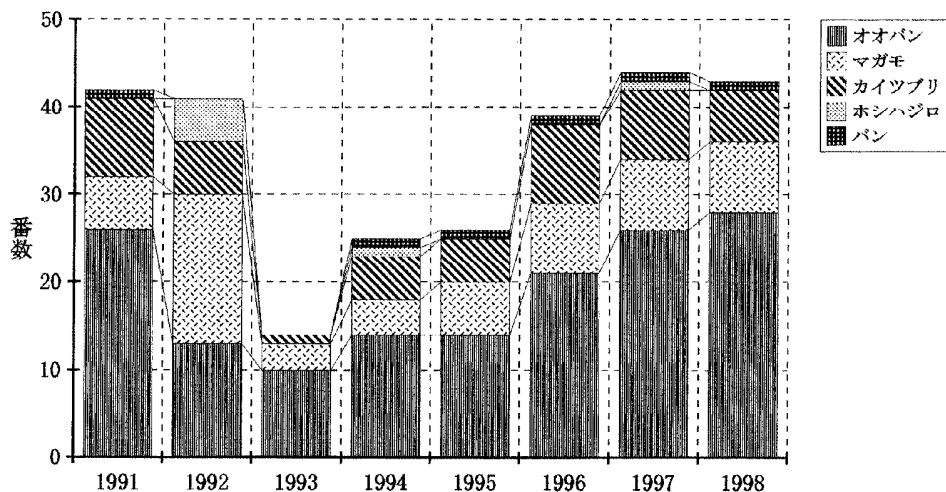


図-2 春採湖で繁殖する水鳥の確認番数
(マガモとホシハジロについては、ヒナ連れの雌の個体数)

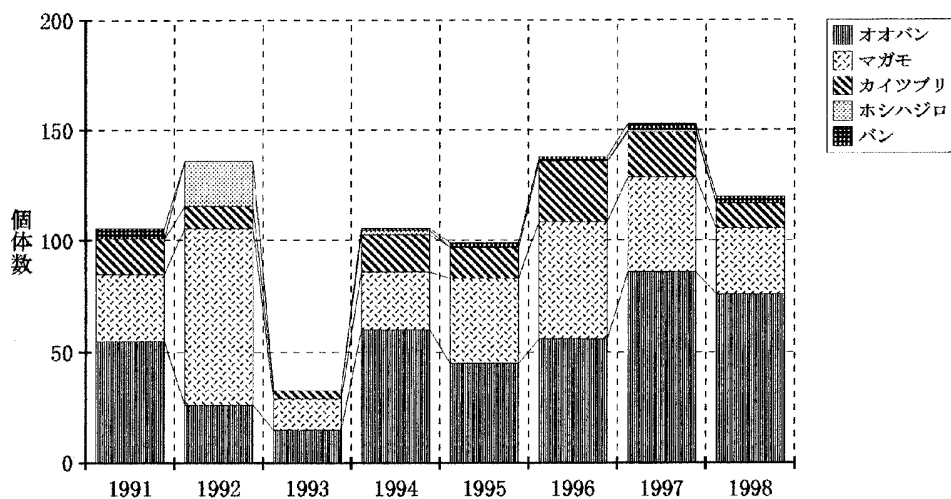


図-3 春採湖で繁殖する水鳥の確認ヒナ個体数

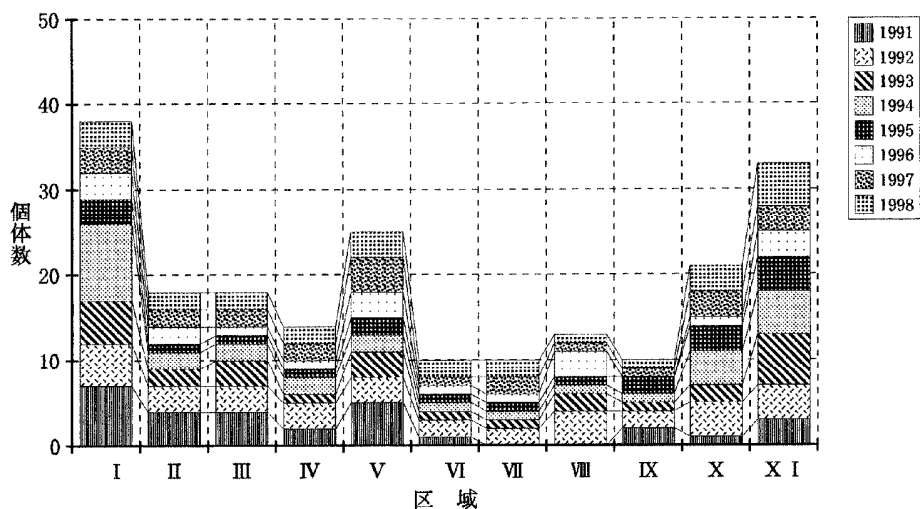


図-4 カイツブリの区域別生息状況 (7~9月中での最多出現個体数を示す)

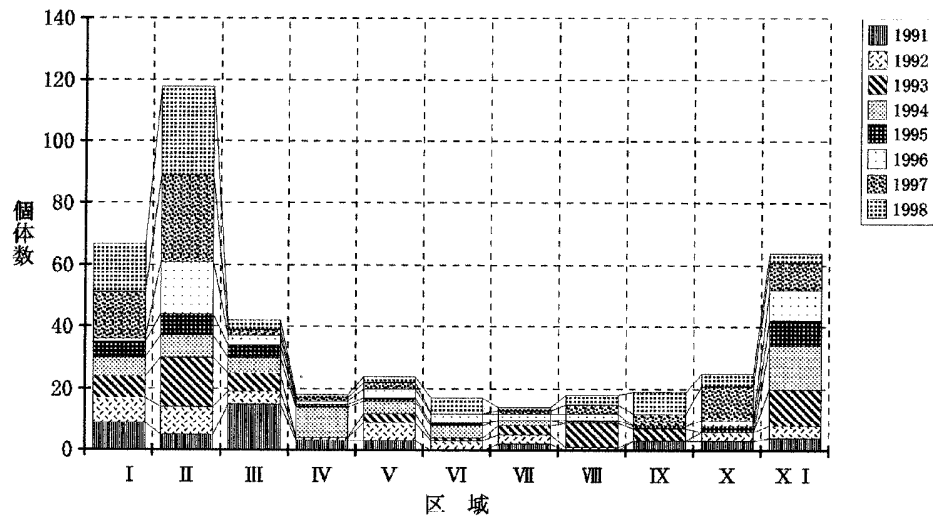


図-5 マガモ（成鳥）の区域別生息状況（6～8月中での最多出現個体数を示す）

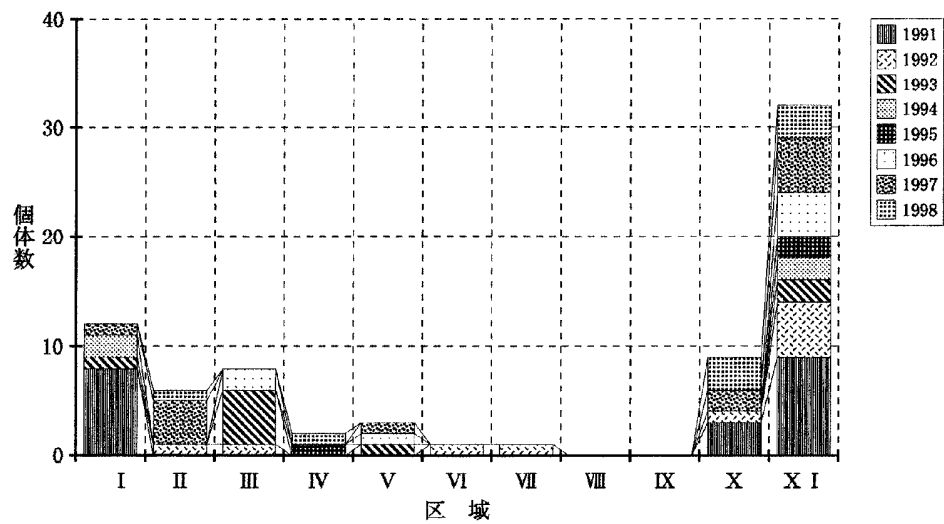


図-6 ホシハジロ（成鳥）の区域別生息状況（6～8月中での最多出現個体数を示す）

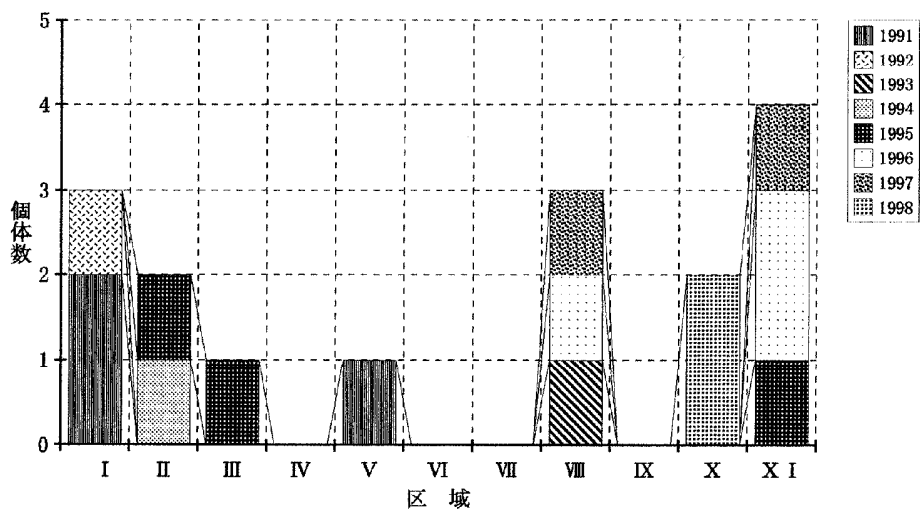


図-7 バン（成鳥）の区域別生息状況（5～9月中での最多出現個体数を示す）

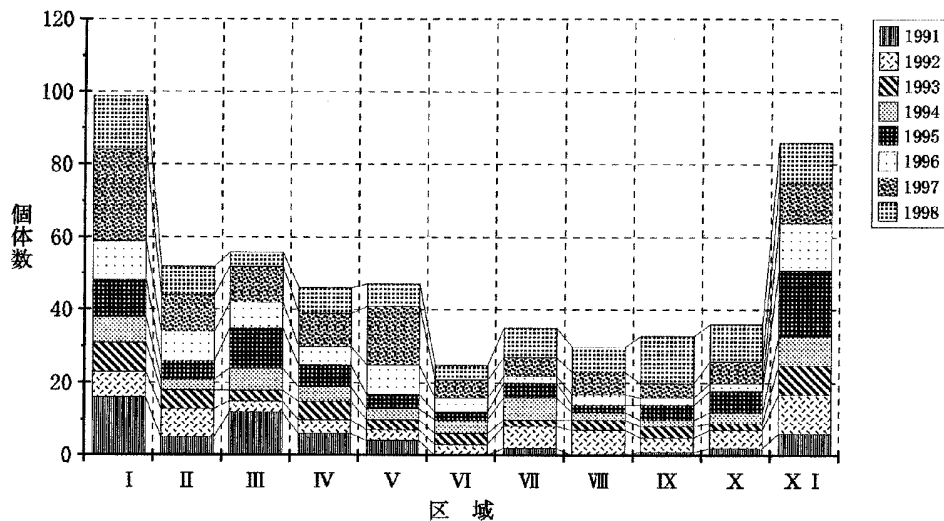


図-8 オオバン（成鳥）の区域別生息状況（6～8月中での最多出現個体数を示す）

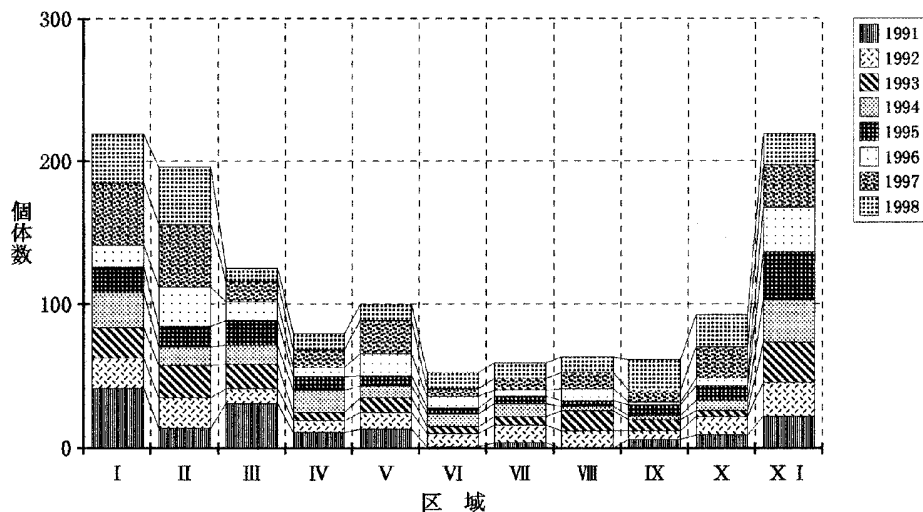


図-9 繁殖した水鳥5種（成鳥）び区域別生息状況
（図-4～8の各種最多出現個体数の合計を示す）

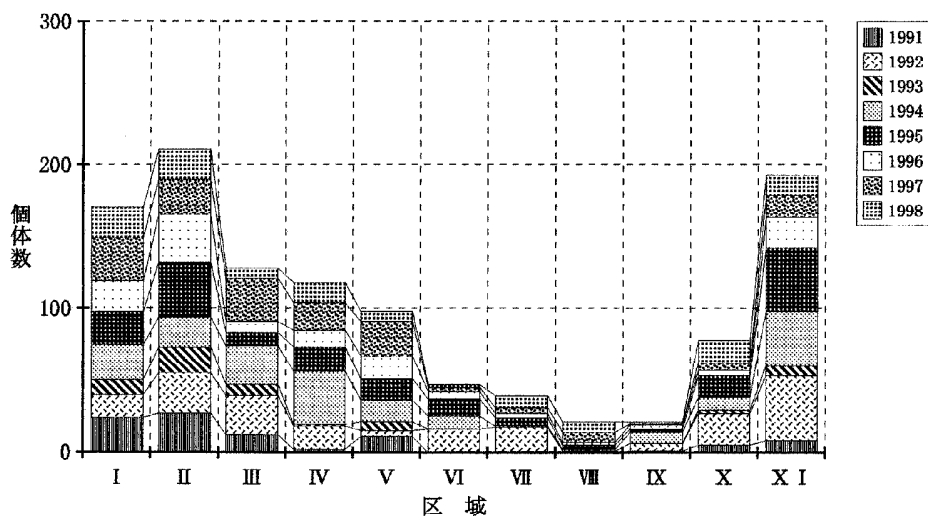


図-10 繁殖した水鳥5種（ヒナ）の区域別生息状況
（各種のヒナの最多出現個体数の合計を示す）

バン（1～5）であり、ほぼ番数に同調した変動を示している。

（2）区域別での成鳥とヒナの出現状況

図-4～10に、湖の区域ごとでのカイツブリ、マガモ、ホシハジロ、バン、オオバンの成鳥並びにヒナの最多出現個体数を示した。なお、カイツブリは7～9月の期間中に、マガモ・ホシハジロ・オオバンは6～8月、バンは5～9月の期間中に各区域で確認した個体数の内で最も多い値を各年における最多出現個体数とした。

種ごとの成鳥最多出現個体数が多い区域は、8年間の累計ではカイツブリがⅠ>ⅩⅠ>Ⅴであり、マガモではⅡ>Ⅰ>ⅩⅠ、ホシハジロではⅩⅠ>Ⅰ>Ⅹ、バンではⅩⅠ>Ⅷ>Ⅰ、オオバンではⅠ>ⅩⅠ>Ⅲとなっている。5種総体の最多出現個体数を8年間の累計でみると、成鳥ではⅠ=ⅩⅠ>Ⅱであり、ヒナではⅡ>ⅩⅠ>Ⅰとなっている。

5種のいずれの種においても、調査日によっては同一個体が他の区域に移動していた場合も考えられることから、必ずしもこの最多出現個体数が区域ごとの生息数を示すものではないが、生息状況を概観することはできる。

種、成鳥、ヒナによってそれぞれ相違があるものの、総体としては区域Ⅰ・Ⅱ・ⅩⅠが水鳥の利用度が高い場所となっている。その要因としては、これらの区域の湖岸ではヨシ帯が他の区域に比べて広く、営巣環境が良好なことで、また水深が2 m以下と浅いために水草の生育が良く、マガモ、オオバンなどにとって採餌条件が整っていることが考えられる。

4. 摘 要

- (1) 1991～1998年の8年間にわたり、釧路市春採湖における水鳥の繁殖状況を調査した。
- (2) 本調査ではカイツブリ *Podiceps ruficollis poggei*、マガモ *Anas platyrhynchos platyrhynchos*、ホシハジロ *Aythya ferina*、バン *Gallinula chloropus indica*、オオバン *Fulica atra atra*の5種の水鳥の繁殖を確認した。
- (3) 各調査年で確認した番数はオオバンが10～28、マガモが3～17、カイツブリが1～9であり、毎年繁殖した。ホシハジロは1992年（5番）、1994・1997年（1番）に繁殖を確認した。バンは1992・1993年は繁殖を確認できなかったが、それ以外の年はすべて1番の繁殖を確認した。
- (4) 湖岸のヨシ帯が広い、湖の北東端と南西端において水鳥の番数が多かった。
- (5) 1993年には水鳥の番数が激減したが、1992年の秋に湖の一部で浚渫が実施されたことと、湖岸に野鳥観察施設が建設されたことが影響した。なお、1996年には番数は激減前の状態に回復した。

5. 引用文献

- 橋本正雄 1971. 春採湖の野鳥. 釧路市立郷土博物館館報, 211: 9-10.
- 橋本正雄 1988. 春採湖及び周辺の環境保全基礎調査報告書, : 117-128. 春採湖調査会. 釧路市.
- 橋本正雄 1994. 北海道東部, 釧路市春採湖の鳥類. 釧路市立博物館紀要, 18: 33-44.
- 前田紀子・福士汎一 1993. 1992年春採湖水鳥調査結果報告. 平成4年度春採湖および周辺の環境保全実施のための継続調査報告書. 春採湖調査会. 釧路市.
- 前田紀子・福士汎一 1995. 1992～1993年春採湖水鳥調査結果報告. 釧路市立博物館館報, 348: 10-13.
- 日本野鳥の会釧路支部 1984. 春採湖の水鳥調査より. 釧路市立博物館館報, 298: 8-9.